

日独で働き方改革・男女共同参画の最新事情を学びあう

日独シンポジウム「働き方改革・男女共同参画～家庭、会社そして社会が輝くには」

開催日：2018年11月6日(火)

場所：経団連会館

プログラム：基調講演「ドイツの働き方改革・男女共同参画の最新事情」

コレット・ルッカート・ヘネン EJO T社取締役

パネルディスカッション(1) 産業界の課題

隅田 貫 日独産業協会特別顧問(チェア)

エルケ・ホルスト ドイツ経済研究所理事シニアエコノミスト

アキレス 美知子 SAPジャパン バイスプレジデント

コレット・ルッカート・ヘネン EJO T社取締役

パネルディスカッション(2) 行政の課題

マルティン・ポール 駐日ドイツ連邦共和国大使館厚生労働参事官(チェア)

ラルフ・クラインディエク 前ドイツ連邦家族・高齢者・女性・青年省副大臣

的場 康子 第一生命経済研究所 主席研究員

黒木 理恵 内閣府男女共同参画局課長

経済広報センターでは11月6日、東京・大手町の経団連会館で、ベルリン日独センター、フリードリヒ・エーベルト財団、ドイツ日本研究所との共催でシンポジウム「働き方改革・男女共同参画～家庭、会社そして社会が輝くには」を開催した。日独両国の企業、政府、研究機関、メディア等から約130名が出席した。

基調講演するヘネン氏



シンポジウムではまず、ドイツの工業部品大手EJO T社のコレット・ルッカート・ヘネン取締役が基調講演を行った。ヘネン氏は、ドイツでは1970年代から国を挙げて女性の社会参加を促してきたものの、いまだ企業にも家庭にも改善の余地が大きく残っていると指摘し、社会の一人ひとりが自ら考え習慣や文化を変えていくことの重要性を強調した。

その後、産業界と行政の課題についてそれぞれ議論を深めるパネルディスカッションが行われた。産業界のパネルでは、隅田貫日独産業協会特別顧問を議長に迎え、エルケ・ホルスト ドイツ経済研究所理事シニアエコ

ノミスト、アキレス美知子SAPジャパンバイスプレジデント、ヘネン氏が登壇。働き方改革とその前提の一つとなる男女共同参画を深めるためには、企業が先進的な制度を整えるだけでなく、従業員がやりたい姿を自ら描き、それを実現すべく行動することが不可欠だといった議論があった。



パネルディスカッションの様子（左から ホルスト氏、アキレス氏、ヘネン氏、隅田氏）

行政の課題についてのパネルでは、マルティン・ポール駐日ドイツ連邦共和国大使館厚生労働参事官が議長を務め、ラルフ・クラインディエク前ドイツ家族・高齢者・女性・青年省副大臣、的場康子第一生命経済研究所主席研究員、黒木理恵内閣府男女共同参画局課長が登壇、行政による支援のあり方や日独間での取り組みの違いなどについて活発な意見交換が行われた。



講演するクラインディエク前副大臣

以上



パネルディスカッションの様子（左から クラインディエク氏、的場氏、黒木氏、ポール氏）

一般財団法人 経済広報センター 国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階

電話：03-6741-0031

<http://www.kkc.or.jp/> ※本稿の無断転載を禁じます。